

令和7年3月10日

富山県立富山工業高等学校
校長 岩原 善延

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、学校の特色及び工業高校としての社会的ニーズも考慮して「学校経営計画」を策定し、その中の「学校アクションプラン」において、全日制では4、定時制では2、合計6の重点課題を設定した。各重点課題に対する取り組み状況や評価等はアクションプランに記載したとおりである。

全日制の重点課題について、学習指導の充実では、一人当たりの検定合格または資格取得数が多いと感じている。一方で、資格を取れていない生徒への対応を考えてほしい。例えば、取得しようとする資格が社会においてどのように役立つのかを卒業生から説明させる方法がある等の意見をいただいた。生徒指導の充実については、今後も高校生段階でのルールを守る指導を継続していただきたい。また、自転車事故が大きく増加したわけではないが、自転車事故は生命に関わることであるため、これからも継続的な指導をお願いしたいとの意見をいただいた。進路指導の充実については、離職率の事実を生徒に伝えることにより、生徒達が自分事として就職活動を行うようになるのではないかと。また、就職先のミスマッチも減少するのではないかと意見をいただいた。部活動の充実については、吹奏楽部をはじめとして、生徒達は大変頑張っている、もっと高く評価をしても良いのではないかと。今後も頑張ってもらいたいと評価をいただきました。満足度は本来、各個人の目標に対するものである。満足度とは何かを再考してほしいとの意見もいただいた。定時制の重点課題については、資格取得を活用した学習指導では、資格取得に向けて、個別に対応した生徒へのサポートは素晴らしい取り組みであるとの意見をいただいた。生徒指導では、生徒の欠席日数の減少を図るためにも、これからも学習意欲を喚起するような指導をお願いしたいとの意見をいただいた。

学校評議員会は2回開催し、重点課題について説明と報告を行った。評議員の方々からは、本校の取り組みについて評価をいただくとともに、数多くの示唆に富んだご助言や力強い励ましの言葉を頂戴した。こうして伺ったご意見を、今後のより良い学校経営に生かしていきたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 今年度の学校評価の結果に基づき、本校の現状と課題について職員全体で謙虚に受け止め、計画の改善と取り組み体制の強化に努めていく。
- (2) 達成目標の妥当性を十分に検討し、また具体的な調査方法についても工夫して、重点課題への効果的な取り組みを目指す。
- (3) アクションプランを公開することにより、学校の取り組みに対する地域や保護者の理解を頂き、学校とのより緊密な連携を目指していく。
- (4) 本学校評価システムを通して、職員全体が学校の教育活動への共通理解を深め、生徒の人間形成や自己実現に向けた、真に有意義な教育活動に結びつけるように努める。

8 学校アクションプラン

令和6年度 富山工業高校アクションプラン -1-	
重点項目	学習指導の充実
重点課題	主体的に学習に取り組む意欲と学力の向上
現 状	○ 各学科では、専門分野に関する検定合格や資格取得に向けた補習を行っている。 令和5年度卒業生は、延べ1109の各種検定や資格試験に合格している。 3年間での一人平均の資格合格数は、3.54となる。
達成目標	一人当たりの検定合格または、資格取得数
	一人平均 3.80
方 策	○ 生徒に資格検定の重要性を理解させるとともに、その実施時期等の年間計画を作成、提示することで、生徒の資格取得への意欲を高める。 ○ タブレット端末の効果的に活用や普通教科との連携など、指導方法を工夫する。 ○ ジュニアマイスター制度及び高校生マイスター認定制度の周知徹底を図り、ものづくりを学ぶ意欲を高める。
達成度	3年生の検定合格または資格取得数は、1138人でした。1人当たり平均としては、3.70で目標は達成できなかった。
具体的な取組状況	令和6年度の3学年（1～3年）の資格取得状況 ○ 3年間を通して多くの検定等を受験し、合格に向け担当の先生方が朝や放課後に補習を行うなど手厚い指導が行われている。 ○ 検定によっては、クラス全員が合格できた検定もあった。資格取得を通して学習に対する自信を持つことができたのではないかと考えている。 ○ 一つの資格を何度も挑戦し、合格している事例も多くあり、あきらめずに挑戦する大切さを知ることができたのではないかと思います。 ○ 上位資格への挑戦が見られた。
評 価	C 各種検定や資格取得を目指す学習を継続することで、専門教科への興味関心を高め、学習習慣の確立や学習意欲の向上を図りたい。
学校評議員の意見	資格を取れていない生徒への対応を考えてほしい。例えば、取得しようとする資格が社会においてどのように役立つのかを卒業生から説明させる方法がある。
今後に向けての課題	検定の合格や資格取得を目指す学習と実習や授業との連携を図り、わかる授業を目指し、専門教科の実践的な学びにつながるよう取り組みをさらに充実させたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度 富山工業高校アクションプラン -2-			
重点項目	生徒指導の充実		
重点課題	生徒の主体性を高め規範意識の醸成を行う		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全確認不十分による事故が減らない状況が続いている。 ○ 校内ルールを認識しているにもかかわらず、安易に携帯通信機器を使用し、指導を受ける生徒がいる。 		
達成目標	自転車事故件数、携帯通信機器（教育用 Tab 含め）の使用に関する指導数 自転車事故：撲滅するため前年度比減を推進（前年度 23 件） 携帯通信機器使用に関する指導数：前年度比減を推進（前年度 35 件）		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒に主体的に事故原因やルールについて考えさせ、自分の安全やルールについての意識を高める。 ○ 富山工業高校生であることに誇りを持たせ、「富工ブランド」を育成することにより、所属する責任と規範意識の高揚を図る。 ○ 自転車事故を分析し、原因・対策を周知することで、生徒が危険予知を行う習慣を身に付けさせる。 ○ ICT リテラシーの醸成を図り、携帯通信機器に依存しない生活を確立させる。 ○ 保護者や地域の方と協議する場で現状の問題点を共有し多方面からの指導を実践する。 		
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自転車事故件数：27件 [R6.1.15 現在 R5：23件] ○ 個人の携帯通信機器に関する指導数：19件 (R6.1.15 現在 R5：35件) 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日の登校指導のほか、学期の節目に「生徒指導部通信」により、富山工業高校生としての自覚と責任を高揚させる。 ○ 自転車事故や運転マナーについて、朝の ST など生徒に呼びかけを行った。 ○ アンケートなどで各自の携帯通信機器の使用状況を認識させ、適切に使用できるよう呼びかけを行うとともに、休み時間中の巡回指導など直接的な指導も実施した。 ○ 携帯通信機器使用ルールについて具体的なプリントを教室掲示し、富山工業高校生としての品格を自覚させるとともに、日常生活習慣などについても適正化できるよう指導に努めた。 ○ 特別指導が増加傾向になりかけた時点で、学年・各学科と連携し、生徒指導部が各クラスに注意喚起を呼びかけた。 		
評 価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center; vertical-align: middle;">C</td> <td>各学年・各学科との連携と協力により、徐々に生徒が落ち着いた学校生活を送っているように思える。しかし、自転車事故件数は増加し、軽微な違反が続き、特別指導も昨年と同様であったことからこの評価とする。</td> </tr> </table>	C	各学年・各学科との連携と協力により、徐々に生徒が落ち着いた学校生活を送っているように思える。しかし、自転車事故件数は増加し、軽微な違反が続き、特別指導も昨年と同様であったことからこの評価とする。
C	各学年・各学科との連携と協力により、徐々に生徒が落ち着いた学校生活を送っているように思える。しかし、自転車事故件数は増加し、軽微な違反が続き、特別指導も昨年と同様であったことからこの評価とする。		
学校評議員の意見	高校生段階でのルールを守る指導を継続していただきたい。また、自転車事故は生命に関わることであるため、これからも継続的な指導をお願いしたい。		
今後に向けての課題	富山工業高校生としての自覚と品格を持たせ、人を気遣えることができ、規範意識の高い工業人を育成するため、学校生活においてルールを守ることの大切さを気付かせることが重要である。そのための教員間の連携を深め、目標の共通理解を図ることと、生徒への情報伝達の深化が大切だと考える。		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度 富山工業高校アクションプラン -3-

重点項目	進路指導の充実	
重点課題	生徒の希望に応じた進路決定への取り組みを充実させる	
現 状	○ 自らの進路選択に対して主体的に取り組むことが少し苦手であり、自己肯定感が希薄な生徒が少なくない。全学年でキャリアパスポートを導入し、進路指導の一助としている。課題達成のためには、生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、生徒が主体的に進路選択をできるように段階に合わせて指導していくことが大切と考える。	
達成目標	3 学年における就職希望の達成度（一次推薦応募先の合格率）	
	95% (R5 94.4%)	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、求人数の確保に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが希望する企業について、生きた情報を収集し、その上で応募先を決定させる。 ○ 進路面談室を利用しやすい環境に整え、受験報告書や企業に関する資料閲覧、就職相談等に対応する。 ○ 面接指導や応募書類作成等、全教職員の協力を得て、個々に応じたきめ細かい指導を行う。 	
達成度	96.8%	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管理職、各学科、3 学年、進路指導部で分担し、約100社の企業と面談や電話連絡をして採用計画や卒業生の就業（離職）状況などの把握に努めた。 ○ 本校独自の「富工求人検索ネット」による生徒用タブレットでの求人票の閲覧、条件検索がスムーズにできるような環境を整備した。 ○ 就職希望者に対して複数社（原則2社以上）の応募前職場見学を継続して実施している。応募先について、しっかりとした比較検討をした上で決定している。ミスマッチの防止にも繋がっている。 ○ 面接試験などの採用試験対策を、学年・学科・管理職との連携により実施した。 ○ 二次推薦で応募可能な企業を把握し、生徒の希望に応じて迅速な情報を提供した。 ○ 3年生を対象に卒業生による進路体験講話を実施した。 ○ 製造業・建設業を中心とするインターンシップ（7月上旬に3日間）を実施し、県内企業124社で2学年生徒が就業体験をした。 ○ 全生徒がキャリアパスポートの作成を通して、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして自己評価を行う取り組みを行った。 	
評 価	A	一次推薦応募先の合格率は目標を達成することができた。不合格となった生徒は7名（民間企業0名、公務員7名）であった。
学校評議員 の意見	離職率の事実を生徒に伝えることにより、生徒達が自分事として就職活動を行うようになるのではないかと。また、就職先のミスマッチも減少するのではないかと。	
今後に向けて の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早い段階からの現実的な進路の目標設定を促し、個々の生徒に対応したサポートを行う。 ○ 産業界（企業）の最新のニーズを踏まえ、求められる人材の育成を目指した指導を行う。 ○ 学校生活全体を通して、高校卒業後の将来について主体的に考えることを意識させる。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和6年度 富山工業高校アクションプラン -4-

重点項目	部活動の充実（質の向上と見直し）	
重点課題	自主自律を育む部活動運営	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動に対する取り組みがやや受け身で、主体的に目標を持った取り組みができていない生徒が増えた。 ○ 部活動加入率が90%を超えているが、近年は途中で退部する生徒も増え、時代の変化や生徒のニーズにも対応が必要。 	
達成目標	日々の部活動に対する満足度（成就感）の割合	
	部活動に対する満足度	70%
	自主的な活動ができていると感じる割合	60%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートによる教員側の思惑と生徒の目的意識との差異を把握 ○ 顧問同士で活動目的や運営指針を共有する ○ 活動場所や部室等の環境整備を自主的に行えるように指導する。 ○ 自ら目標設定を行い、目標に向けた活動内容を自分たちで考えることができるような指導を行う。 ○ 学期に1回部長会議を行い、活動状況の報告などを各部で共有し、リーダーの育成や組織の質の向上をねらいとする。 ○ 生徒の現状やニーズを把握し、設定部活動や内容の見直し 	
達 成 度	部活動に対する満足度	82%
	自主的な活動ができていると感じる割合	74%
具体的な取組状況	部活動意識調査アンケートを実施 6月、1月 部顧問会議の開催 4月、7月、12月 部長会議の開催 7月、12月	
評 価	C	長期休業前に部長会議を開催し、各部と活動の指針や留意点などについて確認しあうことができたが、向上した手ごたえはあまりない。
学校評議員の意見	吹奏楽部をはじめとして、生徒達は大変頑張っている。もっと高く評価をしても良いのではないかと。今後も頑張ってもらいたい。満足度は本来、各個人の目標に対するものである。満足度とは何かを再考してほしい。	
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常の部活動の活動状況を、自分たちがチェックしあい、自立した活動になるように部長会議を定期的に行ったが、部員内でも目的意識にまだまだ温度差があり、大きく向上したとは言えない。今後もじっくり行っていく必要がある。 ○ 今回はやや特活部主導の会議となってしまったが、顧問、部長などと富工の部活動充実のための意見交換の場を持てたらよと感じた。 ○ アンケートについてはまだ情報収集の段階であり、生徒の現状を把握して、今後の部活動の見直しなどに役立てていきたい。また、教員に向けても意見を取りまとめ、富工としての部活動の在り方についても考えなければならぬと感じている。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

【定時制】

令和6年度 富山工業高等学校アクションプラン -1-			
重点項目	学習活動		
重点課題	資格取得を活用した学習指導		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制の生徒の大半は、卒業後に工業の専門的な知識や技術を活かせる仕事に携わりたいことを希望しているが、専門科目に対して受動的な学習態度になりがちである。そのため資格取得を目標に持たせ、専門的な知識や技術を主体的に学ぶ姿勢の涵養に努めている。 ・定時制の生徒は入学前の学習のつまずきに起因する基礎学力不足が影響し、高校での学習内容を既習事項に関連付けて理解することに困難が生じている。そのため学校設定教科「生活」を開設し、学び直しとして、漢字の読み書き、計算力、英語の語彙力の伸長と、一般教養について学習する機会を設け、工業の専門科目を学ぶ上での下支えをしている。 		
達成目標	全国工業高等学校長協会主催の検定や国家資格に1つ以上合格する生徒の割合として65%以上を目標とする。【R5年度実績：70.0%、R4年度実績：64.3%】		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との面談等を踏まえて学力に応じた受検資格を選定し、それに挑戦することによって得られる学びの大切さを説き、生徒本人が主体的に学習に取り組めるよう励ましながらサポートする。 ・各種検定の内容と各学科の専門科目の内容を関連づけた指導をするなかで、生徒が継続的に目標に向い、達成感が実感できる指導法を模索する。 ・生徒との面談を通して必要な補習計画を立案し、進捗に応じた見直しを図りながら遂行する。 ・学校設定教科「生活」を活用し、基礎学力を土台とした工業の専門的な知識や技術の習得を促進する。 		
達成度	全国工業高等学校長協会主催の検定や国家資格に1つ以上合格した生徒の割合 ◎検定合格者数6名（在籍8名）・・・75.0% 【2種目・・・1名、1種目・・・5名（R7.1.20現在） 在校生でのべ7種目】		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と親密にコミュニケーションを取りながら状況に応じたサポートや補習を実施した。結果として、個々の生徒の実情に合わせた指導を概ね行うことができた。 		
評 価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>方策に沿った効果的な指導を行い、結果として年度当初の目標を達成することができた。</td> </tr> </table>	A	方策に沿った効果的な指導を行い、結果として年度当初の目標を達成することができた。
A	方策に沿った効果的な指導を行い、結果として年度当初の目標を達成することができた。		
学校評議員の意見	資格取得に向けて、個別に対応した生徒へのサポートは素晴らしい取り組みである。		
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も親密なコミュニケーションを通して、生徒が主体的に資格取得に挑戦する姿勢の涵養に努め、生徒の実情に応じたサポートを実践したい。 		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

【定時制】

令和6年度 富山工業高等学校アクションプラン -2-	
重点項目	学校生活
重点課題	基本的な生活習慣の確立
現 状	<p>家庭生活や生育歴、学校生活や社会生活状況において様々な問題点を抱えている生徒が多く、生活設計が困難になり、適応性の問題から規則やマナーを遵守する態度が欠けていたりする傾向にある。また、授業遅刻や早退も少なくない。</p> <p>一方で生徒の中には、きちんとした高校生活を歩もうと努力している姿も見られ、働きながらも年間を通じ無欠席の生徒も存在する。こうした生徒たちには、毎日登校する習慣を大切に、自分の将来を考えている向きが感じられる。このように目標と向上心を持って、自律性を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実へ繋がると考える。</p>
達成目標	<p>年間の皆勤・精勤生徒の割合 43% 以上（7人中3人） 【R4年度実績：29% R5年度実績：36%】 ＊皆勤 = 1カ年の欠席が0日 ＊精勤 = 1カ年の欠席が3日以内 （皆勤・精勤においては欠課時数4で欠席1日として換算する）</p>
対 策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から生徒とのコミュニケーションを積極的にとり、生活実態の把握に努める。 ・授業の遅刻や早退がないよう声かけ指導、校内巡視等を随時行う。 ・将来を見据えた進路指導を行うことで、基本的な生活習慣の大切さを自覚させる。 ・健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。 ・スクールカウンセラーや保護者と緊密な連絡体制をとり、問題等の未然防止に努めるほか、問題等が発生したときは、状況に応じて早期に対策を施す。 ・年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みにさせ、日々の生活支援を行う。
達成度	今年度の皆勤・精勤生徒の割合：43%（実質登校者数7名中3名 12月24日現在）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の健康や生活状態を確認（登校時、STなどでの声かけ） ○ 保護者との連携（生徒の状況を相互で掌握、速やかに対応） ○ 教育相談（養護教諭と非常勤カウンセラーとの面談による悩みなどの早期発見） ○ 授業出欠状況の確認と生活指導（授業担当者による遅刻・欠席時数の集計）
評 価	<p>B</p> <p>目標とする割合43%通りの結果になった。皆勤・精勤生徒以外で10日以内欠席の生徒が3名、10日以上欠席した生徒が1名いる。</p> <p>今年度も日常から生徒とコミュニケーションをとり、日常の様々な出来事など気軽に話ができる雰囲気作りに努め、生徒理解を深めるなど粘り強く指導を重ねた。また自己不安、家庭不安など、心が不安定で消極的になり、欠席、欠課しがちな生徒には、教員間、スクールカウンセラー、家庭と連携を図りながらスピード感ある対応を心がけてきた。今後も、進級や卒業を目指して、意欲的に学校生活を過ごす生徒が増えるよう、粘り強い指導を継続したい。</p>
学校評議員の意見	生徒の欠席日数の減少を図るためにも、これからも学習意欲を喚起するような指導をお願いしたい。
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒個々に応じた生活目標を設定し、日々の生活状況を確認しながら助言する。 ○ 充実感や達成感を与えるよう指導を工夫し、学習活動を行う。 ○ 卒業後の就職を念頭におき、目的意識をもって学校生活を送れるようにする。 ○ 進路決定後の生活習慣の安定化を図る。 ○ 養護教諭およびカウンセラーと連携をとり、生徒のストレスへの対処をスピーディに実施する。 ○ 家庭と連絡を密に取り、家庭環境に留意するとともに、必要に応じて中学校や外部機関と連携を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）